

# 「家がいいね」 第157号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2017. 6. 9

ゆっくり歩く者は遠くまで行ける



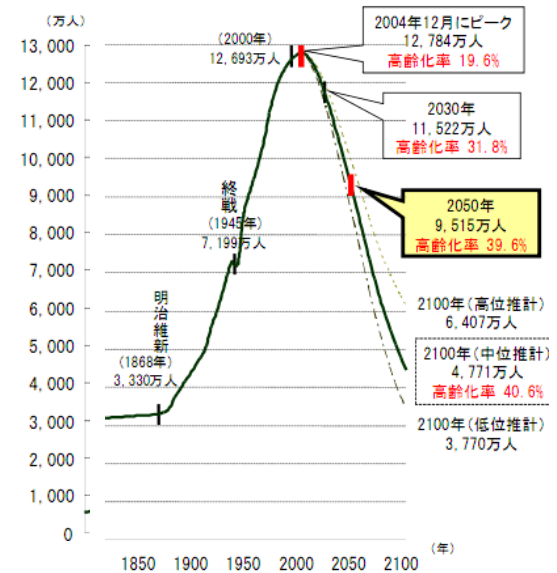
身内を送り、この先まだ続くと思っていた介護も終わり、法要や相続が一つ一つ進んでいくと今度は自分の番、備えは良いか？という声の頭の中で響きます。やり残したことはないか、言い残したことはないか、と悔い改めるべきことへの予行演習みたいです。

気鬱が出て来たのかなと自省しても、意欲が落ちている訳でもありません。題の言葉が目に残り「逸（はや）る気持ちの中で自壊するな！」と受け止めました。「自らの土壌の中に小さな林檎の木を植えよう」と言葉は続き「たとえ明日、世界が滅びようとも」が連想されてきます。一人の魂の歩みは、迷いつつもゆっくりと進むのでしよう。

しかし、世相は慌しく期限を切り、時間短縮が価値観で力を持ちます。今すぐ、速く、決めると重圧がかかると、落ち着いて遠くを見渡すことはできず、個人の尊厳は押し潰されます。一人の魂が声をあげるのが、今ほど大事な時期はないと思えます。歪（いびつ）な多数決は追認しません。

ゆっくり歩き続ける者が遠くを見て、行き当るのが人口の減少社会です。必ず孫の代でそうなる現実問題です。助けあわないと生活が困難になるでしょうが、「お一人さま」で生きる社会感覚に浸かった頭は変えられるでしょうか。郊外に家を建て、高齢化対策と病院施設を増設しています。人口減少期になっても継続可能なのでしょうか。

〇〇タウンは過疎化、箱物は維持困難が必定です。小さな生活を積み上げる視点が大切です。私が在宅医療やケアに関わる立場を選べたのは、本当に幸運だったと思います。「それでも、この地にこの家で生きていく」と思われる魂と一緒に歩くなら、何か行けそうな気持ちと、空を見上げます。



国土交通省資料  
「わが国の人口は長期的には急減する局面に」

本当は恐ろしい、ヒトの動きの物語り  
日本の総人口は、2004年をピークに減少が止まらない。貧困著しい終戦直後でも子どもは生まれ、希望の象徴でもあった。今の少子化は若者の相対的貧困（結婚したくても、出産したくても）のためだと思う。個人の幸せ感を犠牲にした経済成長とは、無意味なものだとあらためて感じる。個人の権利を制限し、管理しようとする政策が、ますます希望を失わせている社会なのだろう。

秋山正子さん講演会、6月25日

暮らしの中で看とること

最期まで住み慣れた地域で

生まれることと支える

津市 三重県総合文化センター  
みえ生と死を考える市民の会主催



聞き書き教室の伊勢研修、連続開催

気になる方の人生を活字にして差し上げたら！

7月16日 坂口美和先生 詳細はチラシにて  
8月5日、9月16日、小田豊二さんが講師  
会場ホームホスピスあこや2階。申込み当院でも

「終わりよければ」いせの会主催



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp  
ホームページ http://isezaitaku.com

↑バックナンバーはここで閲覧可